

株主メモ

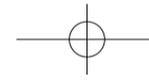
- 事業年度 毎年4月1日から翌年3月31日まで
- 定時株主総会 毎年6月開催
- 基準日 定時株主総会 毎年3月31日
期末配当金 毎年3月31日
中間配当金 毎年9月30日
- 単元株式数 100株
- 株主名簿管理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) ☎ 0120-176-417
- (ホームページURL) <http://www.sumitomotrust.co.jp/STA/retail/service/daiko/index.html>
- 上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
大阪証券取引所市場第一部
- 公告方法 電子公告の方法により行います。
ただし、電子公告によることができない事
故その他のやむを得ない事由が生じた場
合には、日本経済新聞に掲載して行います。

公告掲載URL
<<http://www.ichinenhd.co.jp/>>



株式会社 イチネンホールディングス

〈東証・大証1部コード：9619〉
〒532-8567 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
TEL. 06-6309-1800 (代表)



ICHINEN HOLDINGS

IR REPORT

For comfortable **First** Life
人と社会に、こちよい安全・安心とやさしい環境を創る。

イチネンの「1=First」は。
新しい時代の先進(一番に・初めて)を拓く**First**であり、
いつも最高級のサービスや製品をお届けする**First**です。
人と社会に、こちよい安全・安心とやさしい環境を。
今までも。そして、これからも。

第47期 年次報告書

2008年4月1日から2009年3月31日まで

東証・大証1部コード：9619

株式会社 イチネンホールディングス



● 株主のみなさまへ ●

株主のみなさまには、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第47期におけるわが国の経済は、昨秋のリーマンショックに端を発する金融危機の影響を受け、急激な景気後退を余儀なくされております。それにともない、当社グループを取り巻く事業環境も厳しい状況にありますが、私共は「リース事業」「自動車メンテナンス受託事業」「燃料販売事業」「ケミカル事業」「パーキング事業」の5つの事業を柱にした連邦制経営を推進することでリスクを分散し、経営の安定化を図ってまいりました。また、昨年10月には持株会社に移行し、事業環境の変化に即応できる体制を整えております。さらに、企業の活性化と競争力強化を目指して、4月1日付にて社長交替の役員人事を実施しました。黒田倅稔は代表取締役社長を退任して代表取締役会長に、その後任として黒田雅史が代表取締役社長に就任し、グループの陣頭指揮をとっております。それとともに主力事業会社である株式会社イチネンの大幅な組織改革を行い、顧客の要望に即応する体制を整えております。

この新体制のもと、連邦制経営を維持しつつ、これまで以上にグループ一丸となって、「安全・安心」そして「環境」に配慮した付加価値の高い事業とサービスを提供し、企業価値のさらなる向上に努めてまいります。株主のみなさまには、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。



代表取締役会長 黒田 倅稔



代表取締役社長 黒田 雅史

TOP INTERVIEW
トップインタビュー

**新体制のもと、連邦制経営を継続し、
営業力強化とコスト削減で収益向上を図ります。**

Q 新社長ご就任の抱負をお聞かせください。

A これまでの連邦制経営の継続を基本方針として、事業を推進してまいります。社長という重責に身が引き締まる思いでございますが、イチネングループの代表として、グループ会社が実力を発揮できるように環境を整えていきます。

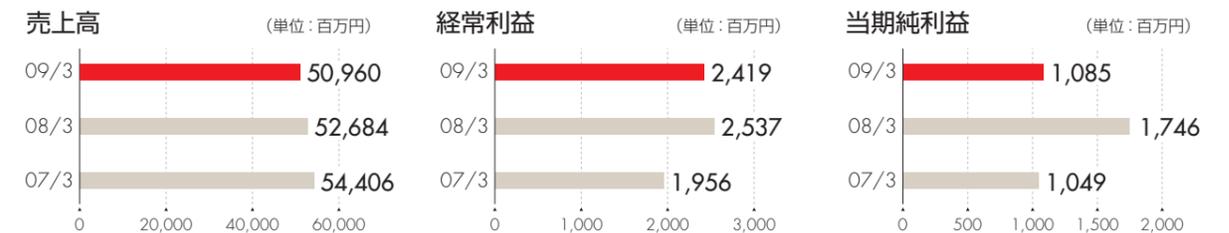
Q 第47期の業績と、第48期の重点的に取組まれることを教えてください。

A 自動車リース業の国内需要は比較的堅調に推移しましたが、契約満了車の輸出向け需要の減少や、ケミカル事業において主要顧客の減産体制が影響し、グループ全体として売上減を余儀なくされました。また、当期純利益は投資有価証券売却損や評価損並びに役員退職



代表取締役社長
黒田 雅史
Masashi Kuroda

財務ハイライト



慰労金制度の廃止に伴う過年度分の役員退職慰労金を特別損失に計上したことにより減益となりました。

第48期につきましては、「営業力強化」と「コスト削減」に取組み、営業利益の向上を目指してまいります。

まず「営業力強化」につきましては、自動車部門を担う株式会社イチネンの組織改革に踏みきり、商品機能別事業部から地域本部制に移行しました。これにより、リース、メンテナンス、燃料などに分散化していたサービスをワンストップでご提供できる体制を整えました。地域密着、顧客密着を徹底し、スピード感をもって顧客の要望に応えてまいります。

また、ケミカル事業を担う株式会社タイホーコーザイにおいても、営業本部を二本部制から一本部制に改革し、顧客の声を迅速かつ確に吸い上げる経営体制を構築しました。同時に営業本部直轄の商品企画室を新設し、カーケミカルや、表面処理技術を活かしたファインケミカル分野の商品開発に重点的に取組みます。

このような組織改革により売上向上を目指す一方で、確実に利益を確保するためコスト削減を徹底します。具体的には、原材料の価格交渉を進めて原価削減を実現するとともに、販売管理費の5%削減を目指して、あらゆる経費に聖域を設けることなく、その必要性、価格、仕入先などを一から見直していきます。

Q 今後の企業ビジョンについて お聞かせください。

A 今後、自動車は燃料電池車をはじめとする電動モーター車へ移行することが予想されます。電動モーター車のメンテナンスは、メーカーやディーラー

が独占しており、将来的に当社の自動車メンテナンス受託事業や燃料販売事業は大きな影響を受けてしまいます。当社では、これらの事業に代わり、新たな成長エンジンとして環境保護に貢献するケミカル事業や、今後も需要増大が見込めるパーキング事業などに注力する方針です。特に、タイホーコーザイが扱うケミカル事業の燃料添加剤は、工場や船舶などの省エネ・環境保全に欠かせない製品として需要拡大を期待しています。新しい分野としては、これまでのイチネンのイメージを脱却する領域にも枠を広げ、積極的に事業提携やM&Aを推進していきます。

また、財務面では増資や有利子負債の削減を視野に入れながら、営業利益40億円超、自己資本200億円超、自己資本比率25%超を目指して経営基盤の強化を図ってまいります。

Q 最後に株主の皆様への メッセージをお願いします。

A 当社は、来年6月に創業80周年を迎えます。長年にわたる事業活動の中では、幾度となく不況や環境変化に見舞われたものの、連邦制経営を推進することにより、グループの結束力を高め、難局を乗り越えてまいりました。

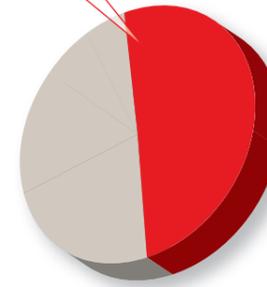
現在も先行き不透明な状況ではありますが、幸い、当社グループの中核事業である自動車リースや自動車メンテナンス受託は、契約期限が設けられていることもあり、数年先まで収益が見込める業種と言えます。また、地球環境保護に貢献するケミカル事業の需要拡大も期待できます。これを下支えとして、新たな成長の柱を築き、全社一丸となって事業を推進してまいります。

セグメント別概況 & 事業紹介



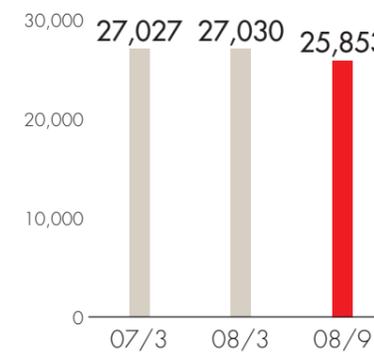
リース事業

50.7%



売上高の推移

(単位：百万円)



リース事業につきましては、引き続き中小口規模の企業をターゲットに投資効率を重視したリース契約の増加に努めてまいりました。また、リース契約満了時における入替促進に注力いたしました。しかし、競合他社との競争激化ならびにリース契約満了時における車両入替が思うように進まなかったことにより、当連結会計年度のリース契約高は179億96百万円（対前期比5.7%減）、当連結会計年度末リース未経過契約残高は435億74百万円（対前期比8.3%減）となりました。

損益面では、低年式・走行過多車両の入替を促進しメンテナンスコストの削減に注力、採算販売の徹底により粗利益率の改善に取り組んでまいりました。また、リース会計基準変更に伴う増益効果はあったものの、第2四半期末で好調に推移しておりましたリース契約終了後の車両処分について、円高やロシアの中古車輸入規制ならびに新興国の景気悪化により輸出向け需要が急減し販売単価が下落しました。この結果、売上高は258億53百万円（対前期比4.4%減）、営業利益は16億10百万円（対前期比12.2%減）となりました。

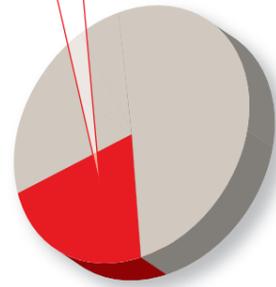
事業紹介

自動車保有による負担を軽減するオートリースを行っています。リース事業は自動車整備工場を経営する過程で誕生しましたので、高品質なメンテナンスリースに自信があります。顧客のニーズや環境保全の視点を取り入れ、幅広いサービスを提供しています。

セグメント別概況 & 事業紹介

ケミカル事業

22.3%



ケミカル事業につきましては、世界的な景気後退の影響を受け、工業薬品関連薬剤を始め化学品においても、昨年秋以降需要が大きく減少しました。特に国内では主力商品である燃料添加剤等の主要顧客の紙パルプ、鉄鋼関係で、大幅な生産調整が行われるなど、低調に推移したことにより販売数量は前期比で減少となりました。

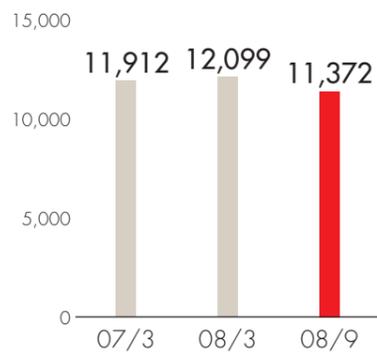
しかし一方で、海運業界の不況も懸念されるなか、造船・海運関係への燃料添加剤等は、その効果が評価され引き続き順調な伸びを示しております。

また、海外におきましては、中国の火力発電所でのNEDO（新エネルギー産業技術総合開発機構）からの受託案件の石炭添加剤実証試験が2月に実施され良好な結果が得られており、今後への期待が高まっております。

この結果、売上高は113億72百万円（対前期比6.0%減）、営業利益は4億68百万円（対前期比32.6%減）となりました。

売上高の推移

(単位：百万円)



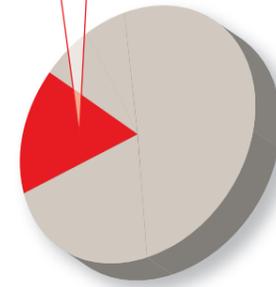
事業紹介

産業機械や自動車のメンテナンスに欠かせないケミカル製品を多彩にラインナップしています。また、各種ボイラやディーゼルエンジンの省エネに貢献する添加剤など、さまざまなテクノケミカル製品もご提供しています。



自動車メンテナンス受託事業

15.4%



自動車メンテナンス受託事業につきましては、メンテナンス契約の量から質への転換を図り、メンテナンスコストの増加要因となる低年式・走行過多車両の入替えを促進しメンテナンスコストの抑制に注力し、不採算契約の改善ならびに走行距離に応じた料金設定を行い収益向上に努めてまいりました。この結果、メンテナンス受託契約高は39億91百万円（対前期比17.5%減）、メンテナンス未経過契約残高は66億52百万円（対前期比10.1%減）となりました。

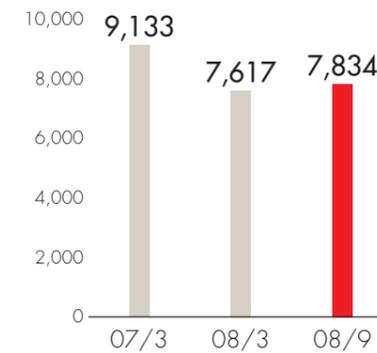
損益面では、前期に実施しました不採算取引先からの撤退、取引条件の見直しにより粗利益率が改善いたしました。

この結果、売上高は78億34百万円（対前期比2.8%増）、営業利益は4億51百万円（対前期比21.9%増）となりました。

なお、平成20年8月1日付けで自動車整備工場の経営を行っておりました当社100%子会社である株式会社カーライフ・イチネンの全ての株式を売却いたしました。

売上高の推移

(単位：百万円)



事業紹介

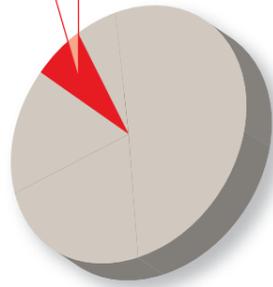
自動車の走行距離に合わせた保守整備や点検情報の集中管理、「動くメンテナンス工場・巡回サービスカー」など、きめ細やかなサービスを実施しています。また、環境に配慮した車体修理事業をイチネンBPプラネットで展開しています。

セグメント別概況 & 事業紹介



燃料販売事業

6.5%



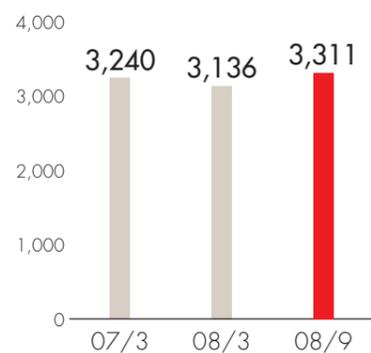
燃料販売事業につきましては、主力である自動車用燃料給油カードは、付加価値の高いサービスを顧客に提供し他社との差別化を図ることにより新規顧客獲得に注力いたしました。

これらにより自動車用燃料給油カードによるガソリン等の販売数量は前期比10%増となりました。

損益面では、第2四半期までは好調に推移しておりましたが、昨年秋以降の原油価格急落によるガソリンスタンドの看板価格が急落した影響を受け、現金給油との販売競争が激化したことにより、自動車用燃料給油カードの採算は悪化しました。

この結果、売上高は33億11百万円（対前期比5.6%増）、営業利益は2億11百万円（対前期比143.8%増）となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



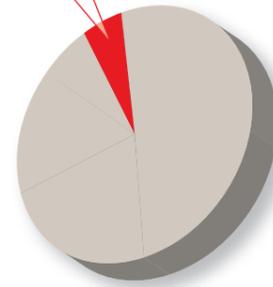
事業紹介

全国の各サービスステーションで給油できる「エクソンモービル・コーポレートカード」を販売。イチネンならではのスケールメリットで全国統一価格を実現し、燃料代削減に貢献します。また、燃料代の一括管理により経理事務合理化もサポートします。



パーキング事業

4.7%

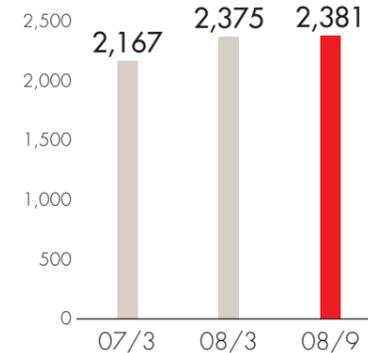


パーキング事業につきましては、中長期的に安定した収益基盤を築くため、更なる駐車場数の拡大と引き続き不採算駐車場の採算改善を行い駐車場個々の収益向上に努めてまいりました。また、前期に長期間安定的に運営可能な駐車場として大阪の中心部にて取得しました駐車場2箇所が稼働したことにより平成21年3月末現在駐車場管理件数は433件（対前期比35件増）、管理台数は11,586台（対前期比1,932台増）となりました。

損益面では、引き続き不採算駐車場の契約内容の見直し、解約撤退による採算改善を行ったことにより、パーキング事業の粗利益率は改善しました。また、当第4四半期連結会計期間に自社取得物件が稼働したことが収益拡大に寄与し、当期より営業損益が黒字に転換いたしました。

この結果、売上高は23億81百万円（対前期比0.2%増）、営業利益は5百万円（前期は1億45百万円の営業損失）となりました。

売上高の推移 (単位:百万円)



事業紹介

土地の有効活用を目的にしたパーキング「One Park」だけでなく、店舗や商業施設、病院に付帯した駐車場にも積極的に取り組み、土地オーナー様やドライバーの皆様々に安心して快適なサービスをご提供しています。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

	当期	前期		当期	前期
	2009年3月31日現在	2008年3月31日現在		2009年3月31日現在	2008年3月31日現在
【資産の部】			【負債・純資産の部】		
流動資産	38,441	14,017	流動負債	32,652	37,746
現金及び預金	6,926	1,533	支払手形及び買掛金	5,771	6,965
受取手形及び売掛金	5,714	6,464	短期借入金	19,671	18,233
リース・メンテナンス等未収入金	1,848	2,236	コマーシャル・ペーパー	1,000	3,200
その他	23,952	3,782	1年以内償還予定の社債	2,400	4,240
固定資産	40,999	64,792	リース・メンテナンス等前受金	2,161	2,928
有形固定資産	29,474	51,364	その他	1,647	2,179
賃貸資産	13,252	35,591	固定負債	34,031	29,015
建物及び構築物	2,437	2,231	社債	6,360	5,960
土地	12,332	12,487	長期借入金	26,211	21,989
その他	1,452	1,054	その他	1,460	1,065
無形固定資産	6,588	7,347	負債合計	66,684	66,762
のれん	5,982	6,636	株主資本	12,942	12,256
その他	606	710	資本金	2,150	2,126
投資その他の資産	4,935	6,081	資本剰余金	3,777	4,267
投資有価証券	1,746	1,727	利益剰余金	7,019	6,324
その他	3,189	4,353	自己株式	△ 5	△ 460
繰延資産	53	48	評価・換算差額等	△ 139	△ 162
資産合計	79,494	78,859	その他有価証券評価差額金	△ 139	△ 162
			新株予約権	7	2
			少数株主持分	—	—
			純資産合計	12,810	12,096
			負債純資産合計	79,494	78,859

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結損益計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	50,960	52,684
売上原価	38,686	40,217
売上総利益	12,274	12,466
販売費及び一般管理費	9,387	9,588
営業利益	2,886	2,878
営業外収益	166	159
営業外費用	633	500
経常利益	2,419	2,537
特別利益	89	294
特別損失	748	730
税金等調整前当期純利益	1,760	2,101
法人税、住民税及び事業税	722	751
法人税等調整額	△ 47	△ 559
少数株主利益	—	162
当期純利益	1,085	1,746

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	当期	前期
	2008年4月1日から 2009年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,174	5,766
税金等調整前当期純利益	1,760	2,101
減価償却費	5,078	14,934
売上債権の増減額	730	△ 76
リース資産の純増加額	△ 5,358	△ 11,149
仕入債務の増減額	△ 1,213	△ 829
法人税等の支払額	△ 848	△ 400
その他	5,025	1,186
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,368	△ 7,057
有形無形固定資産の取得による支出	△ 1,297	△ 8,384
投資有価証券の取得による支出	△ 520	△ 21
その他	449	1,348
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,577	683
社債・借入金の増減額	2,054	2,003
配当金の支払額	△ 365	△ 314
その他	△ 112	△ 1,005
現金及び現金同等物の増減額	5,383	△ 607
現金及び現金同等物期首残高	1,533	2,140
連結範囲の変更による現金及び現金同等物の増減額	—	—
現金及び現金同等物期末残高	6,916	1,533

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結財務諸表

連結株主資本等変動計算書 (2008年4月1日から2009年3月31日まで)

(単位:百万円)

	株主資本				株主資本 合計	評価・換算差額等		新株 予約権	純資産 合計
	資本金	資本 剰余金	利益 剰余金	自己株式		その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2008年3月31日残高	2,126	4,267	6,324	△ 460	12,256	△ 162	△ 162	2	12,096
連結会計年度中の変動額									
新株の発行	24	24			49		—		49
剰余金の配当			△ 365		△ 365		—		△ 365
当期純利益			1,085		1,085		—		1,085
自己株式の取得				△ 84	△ 84		—		△ 84
自己株式の消却		△ 514	△ 24	539	—		—		—
株主資本以外の項目の 当期変動額(純額)					—	23	23	4	28
連結会計年度中の変動額合計	24	△ 489	695	454	685	23	23	4	713
2009年3月31日残高	2,150	3,777	7,019	△ 5	12,942	△ 139	△ 139	7	12,810

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

株主優待情報

割当基準日/3月末日における持株数に対して
右記の内容のお米券を進呈いたします。



持株	内容
100株以上 500株未満	全国共通おこめ券 2kg
500株以上 2,000株未満	全国共通おこめ券 5kg
2,000株以上	全国共通おこめ券 10kg

株式の状況

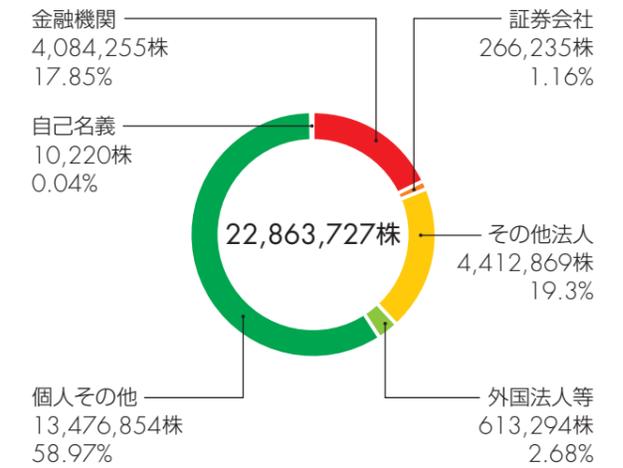
株式の総数 (2009年3月31日現在)

発行可能株式総数 80,000,000株
発行済株式の総数 22,863,727株
株主数 6,525名
大株主

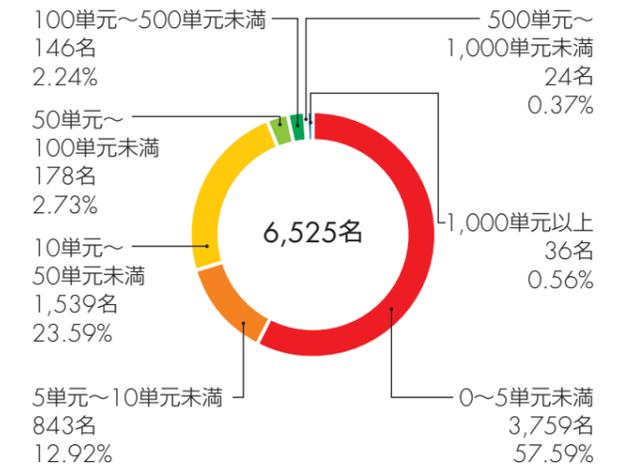
株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
第一燃料株式会社	2,339,000	10.23
住友信託銀行株式会社	820,000	3.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	817,500	3.58
黒田 雅史	758,700	3.32
黒田 和伸	654,200	2.86
黒田 勝彦	603,200	2.64
黒田 恭年	486,016	2.13
黒田 倅稔	472,000	2.06
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	463,100	2.08
黒田 哲也	442,000	1.93

※自己株式 10,220株保有(上記表より除外)

所有者別株式分布



所有単元数別株主分布



会社概要

※ 会社概要 (2009年3月31日現在)

商号 株式会社イチネンホールディングス
(ICHINEN HOLDINGS CO.,LTD.)
URL <http://www.ichinenhd.co.jp/>
本店所在地 大阪市淀川区西中島四丁目10番6号
創業 1930年(昭和5年)6月1日
会社設立 1963年(昭和38年)5月7日
資本金 2,150,900,586円
従業員数 連結609名
単体 43名

※ グループ会社

株式会社イチネン
株式会社イチネンパーキング
株式会社タイホーコーザイ
イチネンBPプラネット株式会社
株式会社セレクト
野村オートリース株式会社
アルファオートリース株式会社

※ 取締役及び監査役 (2009年3月31日現在)

代表取締役会長	黒田 倅 稔	常勤監査役	奥田 純
代表取締役社長	黒田 雅 史	常勤監査役	川上 弘 伸
取締役副社長	黒田 勝 彦	監査役	岸野 信 雄
取締役 常務執行役員	三村 一 雄		
取締役	影山 忠 広		
取締役	灰本 栄 三		
取締役	浅井 和 良		

※ ホームページのご案内

当社のホームページで最新情報を発信しております。
ぜひ併せてご覧ください。

<http://www.ichinenhd.co.jp/>

イチネンホールディングス

検索

TOPページ



IRサイトの一部



TOPICS

自社取得駐車場「OnePark心斎橋」 「OnePark平野町」がオープンいたしました。

(株)イチネンパーキングは、経営の安定化とさらなる成長を目指して、昨年、事業性の高い用地を取得し立体駐車場の建設を進めておりました。

その第一号として、大阪のビジネス街の中心地・淀屋橋～本町エリアに「OnePark平野町」が完成し、去る1月28日、収容台数68台のタワー式立体駐車場としてオープンいたしました。

続いて、大阪心斎橋の中心に「OnePark心斎橋」の第一期工事が完成し、2月20日に収容台数103台の自走式立体駐車場としてオープンいたしました。現在、第二期工事(140台)が進んでおり、8月1日の完全オープン後は全243台と同地域No.1の収容台数を誇る大型駐車場となります。

さらに5月30日には、収容台数136台の「OnePark淡路町」がオープンいたしました。これで今年中に計画しておりました自社取得物件駐車場3カ所がすべてオープンすることになります。いずれの駐車場も時間貸しと月極を併用し、有人管理のもと、つねに安心・安全を意識し、親切な対応を心がけてまいります。お近くにお立ち寄りの際は、当駐車場をご利用くださいますよう、よろしくお願いいたします。



「OnePark心斎橋」
大阪市中央区心斎橋一丁目
総収容台数/103台



「OnePark平野町」
大阪市中央区平野町4丁目5-30
総収容台数/68台